

Art Laboratory Hashimoto Annual Report 2020

2020.04-2021.03



※アートラボはしもとの上記建物での業務は令和3年8月までです。
9月からは再整備のため下記の仮事務所へ移転しました。

新しい住所

アートラボはしもと
〒252-0207
神奈川県相模原市中央区矢部新町3-15
青少年学習センター内

「交通案内」

JR横浜線矢部駅下車、徒歩3分
JR横浜線相模原駅または小田急線相模大野駅からバス
「矢部駅入口」下車徒歩10分



Art Laboratory Hashimoto

アートラボはしもとは、マンションギャラリーだった建物を相模原市が譲り受けて再利用し、アートの活動拠点として開館した施設です。平成24年の開館以降、周辺にある美術系大学などと連携し、そこで学ぶ美大生や卒業生、子どもたちや地域の方々、商店街や企業、小・中学校、市民グループなどと協力しながら、多彩なアート事業を展開しています。



オンラインワークショップ「親子ではじめてアート(第2回)フロッタージュで実験!ふしぎなあかりを親子で一緒につくってみよう!」の様子

アートラボはしもの9年目

アートラボはしもと(以下アートラボ)では、ワークショップ(以下WS)やアウトリーチ、大学との連携などを主体とする事業を数多く行っていますが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点より、今年度の多くの事業を延期、あるいは中止せざるを得ない状況となりました。また、実施した事業についても、規模の縮小や内容の変更を余儀なくされました。

8年目を迎えた「SUPER OPEN STUDIO」は、開催の可否から主催者となるアーティストたちと協議を重ねた結果、むしろこれを今後のオープンスタジオを持続していくための足がかりととらえ、例年とは異なる形式のインターネット配信による「1day OPEN STUDIO」として実施しました。また、2018年度から始まったアーティストや大学生の公開制作事業「オープンラボ」は、今年度、WS提案型事業「ラボボックス」に内容を変更し、公募参加の学生たちは、それぞれのアイデアの実現を目指し、集中して取り組んでいました。さらに来館者向けに、誰でも楽しめるよう常時WSの体験ができる「アトリピング」コーナーを設置しました。これにより、ささやかではありますが、アートに触れる機会の創出につながりました。

刻々と変化する状況のなかで、どのようにしたら事業を実施できるのか、アーティストや関係機関からの助言を受けて、シミュレーションを繰り返しながら、現場へと落とし込む機会が多く生まれました。私たちのクリエイティビティが試されたこの1年は、今後のさらなる活動の躍進へとつながるものと考えます。

次年度は、当館の再整備に伴う準備のため、仮事務所への移転が予定されています。大きな転換期を迎えることとなりますが、これまで培ってきた現場力を活かし、柔軟に対応できるよう工夫を凝らした活動を続けていきたいと考えています。

活動方針

1. アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を、施設内にとどまらず市内の各地に展開します。
2. 様々な主体との協働や異分野との連携を進め、アートを通じたコミュニティの形成やまちの賑わいづくりを推進します。
3. 地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成します。



学生が主体的に開催するオンラインアートイベント

はしもとアートシティ2020 ～翔びだせアートラボ!オンラインで繋がろう～

会期 | 令和2年9月17日(木)～21日(月・祝)
形式 | オンライン
主催 | アートラボはしもと(相模原市)
企画 | はしもとアートシティ2020プロジェクトチーム
協力 | 多摩美術大学



「はしもとアートシティ 2020」は学生主体のオンラインアートイベントです。半年がかりで描いた6m×10mの巨大な絵画をショーウインドウのように館外に向けて展示した「ビッグペイント」の制作プロセスや、「作品展示」をインターネット上で行いました。

本イベントはコロナ禍のために急ぎょオンライン公開に変更となりましたが、学生たちの中止にたくないという熱意のもと、オンラインでの新たな可能性を感じさせる機会となりました。

WEB公開



ホームページを開設し、インターネット上でイベントを発信しました。

参加学生の声

奥山樹生
多摩美術大学 演劇舞踊デザイン学科2年

私は運営メンバーとしてサイト作成の中心を担いました。何かと諦めがちな自分にとって、初めて挑戦したことを最後までやり遂げた良い経験になりました。また、自分に出来ないことは出来る人と補いあうことが重要だということ学びました。そして今回はビッグペイント制作に大変救われました。会話がなくても、同じキャンパス上でともに悩み、想像し、同じ目標をもって描くことで、他人との「つながり」を強く感じました。それは、美術において根本的に大切な何かだったのではないかと考えています。いずれはさらに多くのメンバーを集めて、かつてないイベント(もしくはイベント)を創りあげてみたいですね。

参加学生の声

川口友綺
多摩美術大学 彫刻学科2年

私は主にビッグペイントに取り組みました。制作途中でカラフルだった二つトリをリアルな画風に変えるなど、妥協せず良い作品にしたいという雰囲気メンバー間があり、参加していて楽しかったです。このように大きな作品は1人ではなかなか挑戦できないため、貴重な体験ができ嬉しく思います。その過程のなかで自分が「制作できる大きさの限界」を無意識に決めていたことに気づきました。これからはそれを越えた作品にも挑戦していこうと思います。コロナ禍という大変な時期での開催となりましたが、起こったトラブルやそれらの改善方法を考える時間は有意義なものでした。これからもこの学びを活かし制作に励んでいきます。

イベント発信① 作品展示



アートラボで作品展示を行い、インターネット上で公開しました。

イベント発信② ビッグペイント



皆で協力して一からデザインを考え、布をつなぎ合わせて巨大な絵画を制作しました。インターネット上で制作プロセスを紹介するとともに、館外から見えるように巨大なガラス窓のあるアトリウムに展示しました。

自分の制作活動やアイデアをワークショップで伝えよう!

アートラボはしもと ワークショップデザインプログラム ラボックス

会期 | 令和3年2月7日(日)～3月14日(日)
会場 | アートラボはしもと(オンライン併用)
主催 | アートラボはしもと(相模原市)



美大生によるWSを企画する公募制プログラム。学生の自由な発想を引き出すため、企画したWSの実現を最終目標とはせず「WSを企画すること」に重点をおいています。プログラムでは大学や学年、専攻の異なる美大生が参加し、スタッフとのミーティングや試作を繰り返しました。そして、ゲストアーティストを招いた発表を通して自身の制作や興味関心の方向性を見つめ直し、自分ならではの視点からWSを考えていきました。

令和3年度以降、当館での活動の様子や成果を公開するほか、参加学生によるWS企画の実現に向けてさらに展開していく予定です。

活動のあゆみ

オンライン説明会



初顔合わせ



アイデア出し



中間発表



試作づくり



最終発表



<ゲストアーティスト>



阿部大介 【あべだいすけ】 美術家・女子美術大学准教授

1977年京都府生まれ 2004年愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了
既存の物の表面をうつしとった平面作品、立体作品などを制作している。2014年より鷹野健とのユニットを発足し、制作やWSなどアートプロジェクトを各所で展開している。主な展覧会に、「Figure」(2019年/AIN SOPH DISPATCH/愛知)、「cross references 協働のためのケーススタディ」(2017年/アートラボはしもと/神奈川)などがある。

昨年はコロナ禍の影響により自由が制限された1年でした。女子美術大学も例外ではなく、学外でのほとんどのアート活動が実施できなくなりました。アートラボはしもとにおいても、計画されていた企画のほとんどが実施できなかつたとお聞きしています。このような困難な状況のなかでも、ポジティブにアートに携わる若い方々をサポートするためのプログラムを、ひたむきに考えられ取り組まれていることに共感しました。また、ラボックスはWSを実施することが目的ではなく、WSを考えるプロセスのなかで、企画者自身の活動を改めて問い直すことに重点をおいているところにも新鮮さを感じました。今回、エントリーされたの

は、彫刻、版画、日本画、美術教育など、さまざまな領域でアートを学ばれている5人の学生でした。学生たちのプレゼンテーションは、それぞれの専門を活かしながらも、独自の発想が組み込まれた斬新なアイデアが揃っていました。また、現場での試行錯誤の様子は、WSの成果自体よりも、自身の制作のテーマや本質的な部分と真摯に向き合っているように見えました。今回の経験が、参加したメンバーそれぞれの今後の活動において、継続していくための動機の一つになることを願っています。本企画は私自身にとってもWSとは何かを改めて考える貴重な機会になりました。参加された学生たちの今後の活躍を楽しみにしています。

参加学生の声

小寺美卯 女子美術大学 日本画専攻3年



アートラボのキッズアトリエの黒板に焦点を当てた「画材を作る。-描く/遊ぶに一手間加えよう-」というWSを企画しました。遊びに一手間加え、チョークを原料からつくってみようというコンセプトです。来館した人が自由にその場でつくることができる設置型にし、「作る」と「使う」が共存する空間を創りたかったのです。そこで手軽に参加できる工作感覚のWSを目指してみました。今回ラボックスに参加し、他大学、他専攻の方々がそれぞれの制作、研究をWS企画と関連付けていく過程から多くのことを学びました。また、限られた時間のなかでどのようにアイデアを広げ、絞っていくのかという企画立案の工程を短期ながら教えていただき、形にすることができた貴重な経験でした。



大河翔 多摩美術大学 彫刻学科1年



中高生を対象とした「怪獣」から「自己表現」を経験するWSを企画しました。「怪獣」をモチーフとしたのは、良い面や悪い面などさまざまな要素を自由に取り入れることができる対象だと感じたためです。手順はまず「自分のお気に入りの場所は?」などワークシートの質問に答えることで自分自身を客観的にとらえ、その答えを怪獣の外見や性格の特徴に置き換え、怪獣の実際の形をイメージして描いていきます。最終的にはイメージ図を私が立体化して展示する予定です。WSを企画するのが初めてで、難しいことも多かったのですが、スタッフの方々のアドバイスや普段関わることのない他学科、他大学の方々の刺激もあって、ひとまず形にできました。今回の経験を生かし、作家としての活動にWSを組み込んでいけたらと思っています。



鈴木晴絵 女子美術大学 洋画専攻版画コース4年



版画技法の一つであるコラグラフのWSを企画しました。メディウム、砂、布、ひもなどのさまざまな素材を使い、描いたものが反転して現れたり、想像していたものとは違う風合いになったりするような、制御しきれないコラグラフの面白さを体験してもらうことを目的としました。最終的には作品をアートブックにすることを考えています。私は今まで制作において自分が何をしたいのか明確に言葉にできませんでした。しかしラボックスに参加し、自分が本当にやりたいことを整理して、他人に伝えようとしたときにやり通すことができなかつたと感じ、コンセプトの根本が揺らぐことになりました。そのため整理しきれなかつた歯痒さも残っていますが、改めて技法の面白さや絵を描くことの楽しさに気づくことができました。今回見つかることができたたくさんの課題を今後の制作に活かしていきたいです。



三橋あかり 東京造形大学大学院 造形教育研究領域1年



「空間の認識」をテーマにしています。今回は「君も作品の一部!?作ろう!入ろう!ピックボックスアート!!」というタイトルで、自分が入れるほどの大きなボックスアートを用いたWSを企画しました。ボックスのなかでは描く、ものを置く、吊るす、引っ掛けるなどのさまざまな表現方法で空間を自由にデザインすることができます。また、完成した作品のなかに入り、アートの一部になることもできます。自分や他者のアートの一部となることで、空間の認識を深めることができるのではないかと考えました。約1ヶ月半というタイトなスケジュールでしたが、スタッフの方々の協力もあり、一つの形にすることができました。実施するにはまだまだ課題もありますが、取り組んでいてとても楽しかったので、ぜひWSを実現させたいと思います。



ヨウ エンヒ 女子美術大学大学院 版画研究領域1年



「不完全な完璧」というテーマでWSを企画しました。私たち人間は、いつもいろいろな基準で自分自身を測っていると思います。しかし、自然のなかには美の基準はなく、他に自分自身を測る動物もいません。私たちは自分を受け入れて、自然・万物のように自由に成長し、咲くべきだと思います。私は一輪の花は一つの世界であり、一つの葉は一本の菩提の木であるという考えから、自身の身体が花のように咲くことで生き生きとした生命力溢れる美しさを表す作品などを制作しています。このような作品と一緒に制作することで、私の作品のコンセプトを体験してもらいたいと思います。ラボックスに参加してみて、ゼロから完成までWSを計画する力を始め、さまざまな能力が伸びたと感じます。スタッフや他の学生との交流からも多くのことを学ぶことができました。



オンラインを中心に開催したオープンスタジオ・プロジェクト

1day OPEN STUDIO

日時 | 令和2年11月1日(日) 11:00 ~ 21:00

形式 | オンライン

主催 | 1day OPEN STUDIO 実行委員会 (Super Open Studio NETWORK・アートラボはしもと)

共催 | アートラボはしもと (相模原市)

助成 | 公益財団法人 朝日新聞文化財団

協賛 | 東京造形大学校友会

1day OPEN STUDIO (以下1.O.S.) は、2013年から毎年行っている「SUPER OPEN STUDIO※」の関連事業として実施されたオンラインイベントです。コロナ禍において、アーティストの活動を多角的に紹介する方法を模索した結果、今年度は1日限定のインターネット配信のイベントを企画しました。各スタジオをつなぐツアープログラムや公開制作、まちなかでのプロジェクトの様態を配信し、リモートでのWSを行うなど、オンラインの利点を活かしたさまざまなコンテンツ制作に取り組みました。



※本市および近隣地域には、多くのアーティストが、倉庫や廃工場を改装したスタジオ(制作場所)で作品制作を行っています。このエリアに集まるスタジオを一堂に公開するプロジェクトが「SUPER OPEN STUDIO」です。

トーク ライブ配信

スタジオドックからこんにちは

企画・出演 | 1.O.S. 実行委員会 ほか

司会 | 吉岡知秋 (pimp studio)

当館に設置した中継ブースから1.O.S.の全プログラムの内容を紹介しました。吉岡氏が司会となって各チャンネルと中継を行ったほか、ブースを訪れたゲストに話を聞くなど、にぎやかな1.O.S.の全貌を届けました。



スタジオビジット・オンラインツアー

企画・ガイド | 大槻英世 (STUDIO 牛小屋) 中尾拓哉 (アートラボはしもと美術専門員)

ゲスト | 前半 水田紗弥子 (Little Barrel キュレーター)

後半 熊倉晴子 (森美術館 アシスタント・キュレーター)

例年実施してきたS.O.S. NETWORK (以下S.O.S. NET)の参加スタジオをめぐるバスツアーに代わり、各スタジオをオンラインで中継するツアープログラム。コロナ禍でも途切れずに、今年も19軒のスタジオの様子を紹介することができました。



参加スタジオ: pimp studio, LUCKY HAPPY STUDIO, STUDIO ISSEI / ゲルオルタナ, studio kelcova, 相原スタジオ, STACK ROOM, アトリエボイス, RED IRON STUDIO, モゲスタ Moge Studio, クントハウス, ESA, STUDIO 牛小屋, REV, TANA Studio, アトリエ 481, STUDIO VOLTA, STUDIO カタクリコ, RMP, SPECIAL FEELING STUDIO



超1.O.S. TV

企画 | 鈴木飛馬 (RED IRON STUDIO)

ガイド | 鈴木飛馬 仲間一晃 宮石憲作

YouTuberとしても活動するアーティストの鈴木氏が、2人の友人とともに市内周辺やS.O.S. NETのスタジオを自由にめぐりながらの様子を配信。スタジオが多数存在する相模原周辺を、アーティストの視点から紹介しました。



撮影: 芳賀新

ワークショップ 限定配信

小さな木のレリーフを彫ろう!

講師 | 本多絵美子 (アトリエ 481)

主催 | アートラボはしもと (相模原市)

参加者 | 15名

彫刻家の講師にテクニックを教わりながら、好きな動物のレリーフを彫るWS。当館初のオンラインWS事業であり、市内だけでなく遠隔地からの参加者もみられ、画面越しの講師との会話や制作を楽しんでいました。



参加者の声

・あっという間の時間でした。県外からも参加させていただき有り難かったです。完成目指してもう少し頑張ります。

・立体感をだすのは難しかったですが、先生の具体的なアドバイスのおかげで作品が徐々に生き生きしていくのを感じました。

公開制作 ライブ配信

山本麻璃絵 丸太解体ショー

出演 | 山本麻璃絵 (pimp studio)

場所 | pimp studio

作品づくりの土台となる丸太解体の様子を、スタジオから公開しました。山本氏は、チェーンソーなどを使って丸太を切り開き、木彫作品の素材へと整える最初の工程を披露しました。



撮影: 芳賀新

久村卓 リピート再生中

出演 | 久村卓

場所 | NADiff Window Gallery

個展会場から、既製品のロゴに刺繍を加えるシリーズの制作を公開しました。彫刻作品に付随する台座などの環境的要素を縫い込むことで、ロゴが次第に美術作品へと変貌していきました。



ゲルオルタナ ビニール道場

出演 | ゲルオルタナ (明定由香里 栗原一成 小林丈人)

場所 | STUDIO ISSEI

ゲルオルタナは、スタジオいっぱい張りめぐらされたビニールに、多種多様な道具を用いてドローイングを展開。道場に立上ったスタジオのなかでひたすら手を動かして、さまざまな表現を試みました。



撮影: 芳賀新

ドキュメンタリー 録画配信

S.O.S. Documents

監督 | 仁禮洋志 (相原スタジオ)

出演 | S.O.S. NETのアーティスト

アーティストたちの日常を記録したドキュメンタリー映像。コロナ禍で発表の機会が減少するなかでも制作を続けている彼ら・彼女らの姿をカメラに収めました。



バラエティ 録画配信

ちあきの部屋

企画・司会 | 吉岡知秋

出演 | 日山亮佑

相模原でYouTuberとしても活動するアーティストの日山氏にインタビュー。S.O.S.の面白さや制作している動画の見どころなどの話を通じて、新たな表現媒体に挑戦するアーティストの姿を紹介しました。



アーティストが相模原に大量にいるって状況って

パフォーマンス

DELIVERY BOX PROJECT

企画 | 小川潤也 (相原スタジオ)

パフォーマンス | 今井しほか 小川潤也 鈴木清太 田中昌樹

中尾拓哉 渡利達彦 (アトリエボイス)

作品を展示したボックスを背負って移動するプロジェクト。スタジオが点在する広範な地域をめぐる、人の移動や屋内での活動に制限がかかるなか、街にいる人々に直接作品を鑑賞してもらいました。



撮影: 芳賀新

トーク 録画配信

MKOS×1.O.S. DIRECTORS MEETING

企画・司会 | 小山維子 (REV) 水上愛美 (RED IRON STUDIO)

出演 | [MKOS運営メンバー] 中屋敷智生 (代表) シュヴァープ・トム シュヴァーボヴァ・さおり 松井沙都子

京都のオープンスタジオ・プロジェクト「MKOS」とともに、それぞれのプロジェクトの運営方針や意義などについてトークをしました。関西地方のオープンスタジオの志向を知る貴重な交流となりました。



ステイスタジオミーティング

企画・出演 | 小山維子 水上愛美

司会 | 水田紗弥子

出演 | Vol.1 [なえぼのアートスタジオ] 大橋鉄郎 山本雄基

[WALLA] 吉野俊太郎

Vol.2 [金閣寺(仮)スタジオ] 久保田智広 武田龍 松尾宇人

[RANZANSTUDIO] 岡廉久朗 清水大矢 降旗洋輔 山本朱音

[WALLA] 大石一貴 大野陽生 前田春日美

全国各地のスタジオで制作するアーティストたちをゲストに迎え、各スタジオの特色や設立経緯、制作場所を公開する意義やその機能についてトークセッションを行いました。



参加型プログラム オフライン

みち/きせつ

企画・出演 | 小山維子

参加者 | 6名

スタジオではなく、そこに至る「道の途中」に人々を招くことで、制作の「プロセス」について改めて考えるプログラムです。参加者たちと絵日記をつけながら散策しました。



撮影: 富澤大輔

シンポジウム ライブ配信

アフタートーク「1.O.S. NIGHT」

出演 | 1.O.S.に参加した方々

各プログラムの出演者とともに、1日の出来事を振り返り、それぞれの視点から今後の展望などについて話し合いました。最後は、過去にS.O.S.で作曲された歌を当館初代館長が弾き語りするサプライズで幕を閉じました。



記録集

S.O.S. BOOK 2020

-1day OPEN STUDIO 記録集-

ライブ配信、録画配信、オフラインなど、さまざまなプログラムが交差した本イベントの1日をまとめた記録集。新聞の番組表のように出来事の流れを一覧できるリーフレットとして仕上げました。



リビングルームにいるようにつろぎながらアート体験

アートリビング –シュールな実験室–

会期 | 令和2年7月11日(土)～令和3年3月30日(火)
会場 | アートラボはしもと
主催 | アートラボはしもと(相模原市)

いつでも誰でも気軽に工作が体験できるコーナー。期間を通して西洋美術のシュルレアリスムの技法「コラージュ」の実験をしました。

コラージュは素材を切って貼るだけで簡単に楽しめる技法ですが、紙をしわくちゃにしたり、やぶったり、写真を切り貼りしたり、また貼った素材をはがしたりと、その表現は非常に多岐にわたります。年齢を問わず、多くの方が参加し、固定概念にとらわれない、驚きと発見に満ちた作品がたくさん生まれました。さらに、完成した作品を壁に貼ることで、イメージの連鎖がどんどんと広がっていく交流の場になりました。



親子ではじめてアート(第1回)

デカルコマニーで実験!すてきな缶バッジを親子で一緒につくってみよう!

日時 | 令和2年9月19日(土) 10:00～11:30、14:00～15:30
会場 | アートラボはしもと
主催 | アートラボはしもと(相模原市)

絵の具を紙に押しつけて模様をつくる「デカルコマニー」を使ったWS。色とりどりの絵の具によって生み出される不思議な模様から、素敵な形を探していきます。参加者は、シュルレアリスムやデカルコマニーのレクチャーを受け、偶然できた模様を動物や風景に見立てたり、お気に入りの部分を見つけたりしながら、親子で楽しくオリジナルの缶バッジをつくっていました。



参加者の声

- ・アートラボで今回も楽しませていただきました。親子で作品をつくるという経験がなかなかできないので、ここでの時間が本当に良い時間です。
- ・久しぶりにデカルコマニーをやってみて、面白かった。子どもと一緒にできて良かった。つくった作品を缶バッジにして長く楽しめるところも良かったです。
- ・バッジをつくって楽しくってわくわくしちゃう!!

シュールdeデザイン

コラージュで実験!さまざまな素材を貼りつけて不思議な写真立てをつくろう!



日時 | 令和2年11月28日(土) 15:00～16:30、19:00～20:30
会場 | アートラボはしもと
主催 | アートラボはしもと(相模原市)

中学生以上を対象のWSで、写真立てに「コラージュ」をしました。参加者は写真立てのなかに入れる写真を想像しながら、フレームにさまざまな素材を切り貼りしていきます。コラージュした写真立てにお気に入りの写真を入れたり、また別の写真に入れ替えたりすることで、写真とフレームの組み合わせが変わり、何度も新しいイメージに出会うことができます。最後には出来上がった写真立てを互いに鑑賞し合い、参加者同士で交流しました。

参加者の声

- ・レクチャーがあり、シュルレアリスムとは何かを理解した上で制作に入れてよかった。大変興味深く勉強になりました。
- ・初めての参加でしたが、丁寧な説明でとても良かったです。もう少し制作時間があればなあー、と思いました。

親子ではじめてアート(第2回)

フロッターージュで実験!ふしぎなあかりを親子で一緒につくってみよう!

日時 | 令和3年2月28日(日) 10:00～11:30、14:00～15:30
形式 | オンライン
主催 | アートラボはしもと(相模原市)

紙に凹凸を押し当てて鉛筆でこすり出す「フロッターージュ」を使った「明かり」づくりをオンラインで実施しました。オンラインであることを活かし、各家庭で普段見慣れた日用品や壁などの凹凸から、不思議な模様を収集しました。そして見つけた模様から景色などに見える部分を探し、切り絵を貼りつけて1枚の絵にします。明かりをつけると見つけた模様がもう一度浮かび上がり、参加者はその様子を楽しんでいました。



参加者の声

- ・身近な素材でつくり上げていく過程が面白かったです。
- ・引っ込み思案の娘なので、自宅出来ることで参加しやすかったです。他の参加者の方々からも刺激をもらい、とても良い時間でした。
- ・Zoomを使って、分かりやすく作品をつくることができました。その場にはいないけれど、みんなと一緒にイベントに参加できて良かったです。



市立図書館・アートラボはしもと連携事業

つくっちゃおう かみしばい! 第6幕

日時 | 令和3年2月23日(火・祝)・27日(土)・3月6日(土) 各回 9:30 ~ 12:00
形式 | オンライン
主催 | 相模原市立図書館・アートラボはしもと(相模原市)

紙芝居作家の本多ちかこ氏を講師に迎え、子どもたちが自分で考えた物語を紙芝居としてつくりあげて発表する市立図書館との連携WSです。今年度は、制作から発表までを全てオンラインで行いました。最終日の発表会では、参加者のご家族が子どもたちの発表を楽しみました。



<講師>
本多ちかこ 【ほんだちかこ】
紙芝居作家
「うかれ紙芝居」主宰。紙芝居の創作と実演の活動をはじめ、紙芝居づくりのWSに力を入れている。

このWSは7年目に入ります。昨年はコロナ禍で中止となり、応募してくれた子どもたちをガッカリさせてしまいました。今回は中止にしないぞ!とオンラインでの開催を早い時期に決めスタートしました。しかし、私はオンライン講座の経験がなく、準備段階で不安に... 本当にオンラインで紙芝居がつくれるのか!? 対面でのWSとはかなり勝手がちがいます。結局、「声と絵」でわかりやすく伝える、これに尽きると思いました。

「声と絵」といえばまさに紙芝居の世界。伝えたいことを絵に描き紙芝居にしたところ、集中して見てくれました。そう、紙芝居で伝える紙芝居講座。子どもたちはちゃんとポイントを理解し、どの子も個性的な作品を仕上げました。発表会はオンラインでお客様をお迎えし、堂々の実演でした。「また、紙芝居つくる?」と聞いたら「もちろん!」と力強い声。達成感と自信に満ちた表情です。子どもたちはスゴイや!

児童クラブ定期ワークショップ

近隣の児童クラブから依頼を受け、毎年出張WSを行っています。今年度は、工作キットを届けることで児童がアートに親しむ機会をつくりました。また、工作の企画から制作を博物館学芸員実習生や東京造形大学小林貴史ゼミナールの学生が行ったことで、学生たちの実践の機会にもなりました。



① 削ってつくろう! 魔法の帽子

日時 | 令和2年9月29日(火)・30日(水)
会場 | 小山児童クラブ
主催 | アートラボはしもと(相模原市)

クレヨンと絵の具を塗り重ねたあと、尖ったもので削って絵を描く「スクラッチ」の技法を用いて模様をつけた帽子をつくりました。子どもたちは、博物館学芸員実習生がつくった模様の見本を見ながらさまざまなたくさんの模様を描きました。



② 回して遊ぼう「まわりす」

日時 | 令和2年11月25日(水)
会場 | 旭児童クラブ
主催 | アートラボはしもと(相模原市)
企画 | 東京造形大学小林貴史ゼミナール

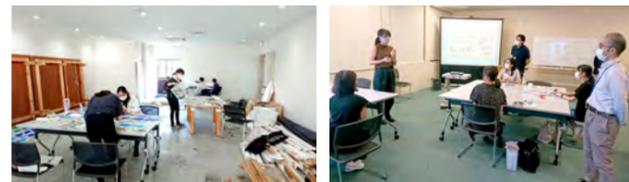
切りぬいた紙皿に糸や綿などを飾りつけてクリスマスリースをつくりました。真ん中の絵柄をくるくると回せる仕組みで、子どもたちは変化する絵を楽しんでいました。クリスマスの期間限定で当館でも実施しました。



博物館学芸員実習生受入

期間 | 令和2年9月13日(日)・19日(土)・21日(月・祝)・27日(日)・10月2日(金)
会場 | アートラボはしもと
主催 | アートラボはしもと(相模原市)

今年度は8大学から10名の実習生を受け入れ、小山児童クラブに届ける工作キットの企画制作などを実習しました。工作の技法や組み立ての楽しさを伝えられるよう、工夫をこらして制作に取り組んでいました。当館主催のWS「親子ではじめてアート」では運営補助を務め、参加者の親子と接する機会を得たことも企画に活かされたようです。



旭小学校出張授業 「にじみ」を使って描いてみよう!

会期 | 令和2年10月1日(木)・6日(火)
会場 | 旭小学校

絵の具の技法の一つ「にじみ」の紹介をしました。この技法による作品を鑑賞した後、秋の葉を「にじみ」で描くなど、さまざまな素材でこの技法の楽しさを学びました。



2020年度事業一覧

| | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| アートラボが主催する事業 | 小学校や児童クラブとの連携事業による出張 WS や団体受入 |
| 地域アーティストなどとの連携事業 | |
| 市内施設・団体との連携事業、市内の催しへの出張 WS など | |

| 事業名 | 会期 | 来場数 | 分類 | プログラム名 | 実施日 | 参加数 | 講師など | ページ |
|---|--------------------------|-----------|----------------|---|-------------------------|-----|--|-----|
| アートリビング・シュールな実験室 | 2020/7/11~2021/3/30 | 205 | 工作 | コラージュ | 2020/7/11~2021/3/30 | - | 当館美術専門員 | 7 |
| はしもとアートシティ 2020 ~翔びだせアートラボ! オンラインで繋がるう~ | 2020/9/17~21 | ※309 | web公開 web公開 | ビッグイベント 作品展示・発表 | 2020/9/17~21 | - | 多摩美術大学、女子美術大学、武蔵野美術大学学生 多摩美術大学、女子美術大学学生 | 2 |
| 児童クラブ 定期ワークショップ | 2020/9/29-30-11/25 | - | WS | 削ってつくろう! 魔法の帽子 | 2020/9/29-30 | 74 | 博物館学芸員実習生 | 9 |
| 1day OPEN STUDIO | 2020/11/1 | ※2,667 | ライブ配信 | スタジオドックからこんにちは | 2020/11/1 | - | 吉岡知秋 | 5-6 |
| | | | ライブ配信 | スタジオビジット・オンラインツアー(前半) | | | 大槻英世、中尾拓哉(当館美術専門員) 水田紗弥子(Little Barrel キュレーター) | |
| | | | ライブ配信 | スタジオビジット・オンラインツアー(後半) | | | 大槻英世、中尾拓哉 熊倉晴子(森美術館 アシスタント・キュレーター) | |
| | | | ライブ配信 | アフタートーク「1.O.S. NIGHT」 | | | 1.O.S.に参加した方々 | |
| | | | ライブ配信 | 公開制作「山本麻璃絵丸太解体ショー」 | | | 山本麻璃絵 | |
| | | | ライブ配信 | 公開制作「久村卓リビート再生中」 | | | 久村卓 | |
| | | | ライブ配信 | 公開制作「ゲルオルタナビニール道場」 | | | 明定由香里、栗原一成、小林丈人 | |
| | | | ライブ配信 | 超 1.O.S.TV | | | 鈴木飛馬、仲間一見、宮石憲作 | |
| | | | 録画配信 | MKOS×1.O.S. DIRECTORS MEETING | | | 小山維子、シュヴァーフトム、 シュヴァーボヴァ・さおり、中屋敷智生、 松井沙都子、水上愛美 | |
| | | | 録画配信 | ステイスタジオミーティング Vol. 1 | | | 大橋鉄郎、小山維子、水上愛美、水田紗弥子、山本雄基、吉野俊太郎 | |
| | | | 録画配信 | ステイスタジオミーティング Vol. 2 | | | 大石一貴、大野瑞生、岡廉久明、小山維子、久保田智広、 清水大矢、武田龍、降旗洋輔、前田春日美、松尾宇人、 水上愛美、水田紗弥子、山本未音 | |
| | | | 録画配信 | ちあきの部屋 | | | 日山亮佑、吉岡知秋 | |
| | | | 映像配信 | S.O.S. Documents | | | 仁禮洋志、S.O.S. NETのアーティスト | |
| | | | SNS配信 | DELIVERY BOX PROJECT | | | 今井しほか、小川潤也、鈴木清太、田中昌樹、 中尾拓哉、渡利達彦 | |
| 参加型プログラム WS 限定配信 | みち/きせつ 小さな木のレリーフを彫ろう! | 小山維子 5 | 本多絵美子 | | | | | |
| 親子ではじめてアート(1) | 2020/9/19 | 16 | WS | デカルコマニーで実験! すてきな缶バッジを親子で一緒につくってみよう! | 2020/9/19 | 16 | 当館学芸員、当館美術専門員 | 8 |
| 親子ではじめてアート(2) | 2021/2/28 | - | オンラインWS | フロッタージュで実験! ふしぎなあかりを親子で一緒につくってみよう! | 2021/2/28 | 21 | 当館学芸員、当館美術専門員 | |
| シュール de デザイン | 2020/11/28 | 5 | WS | コラージュで実験! さまざまな素材を貼りつけて不思議な写真立てをつくらう! | 2020/11/28 | 5 | 当館美術専門員 | 9 |
| 工作プログラム | - | 23 | WS | 回して遊ぼう「まわりす」 | 2020/12/14~25 | 23 | 東京造形大学小林貴史ゼミナール学生 | |
| アートラボはしもとワークショップデザインプログラム「ラボックス」 | 2021/2/7~3/14 | - | その他 | アートラボはしもとワークショップデザインプログラム「ラボックス」 | 2021/2/7~3/14 | - | 阿部大介 | 3-4 |
| 市立図書館・アートラボはしもと連携事業「つくっちゃおう かみしばい! 第6幕」 | 2021/2/23-27-3/6 | - | オンラインWS | 紙芝居ワークショップ | 2021/2/23-27 | 5 | 本多ちかこ | 9 |
| | | | web実演 | オンライン紙芝居実演 | 2021/3/6 | | | |
| 令和2年度博物館学芸員実習 | 2020/9/13-19-21-27-10/2 | - | その他 | 児童クラブ造形プログラム企画 ワークショップ「親子ではじめてアート」運営補助 | 2020/9/13-19-21-27-10/2 | 10 | 当館学芸員、当館美術専門員 | 9 |
| 旭小学校出張授業 | 2020/10/1-6 | - | その他 | 「にじみ」を使って描いてみよう! | 2020/10/1-6 | 91 | 当館学芸員、当館美術専門員 | 9 |
| 東京造形大学オンライン講義 | - | - | その他 | 「小林貴史ゼミナール」 オンラインワークショップの可能性についての意見交換会 | 2020/8/5 | 9 | 当館学芸員 | - |
| 東京造形大学オンライン講義 | - | - | その他 | 「造形教育研究II」 社会教育における造形活動としてアートラボの事例紹介 | 2020/10/22 | 9 | 当館学芸員 | - |
| その他 | - | - | その他 | 橋本小学校2年校外授業「まちたんけん」対応 | 2021/1/7 | 35 | 当館学芸員 | - |
| その他 | - | - | その他 | 工作紹介動画「くるくる巻物ゲーム」制作 | 2020/4/7 | - | 当館学芸員、当館美術専門員 | - |
| その他 | - | - | その他 | 工作紹介動画「ミヤマ仮面とつくって遊ぼう!」制作 | 2021/3/11 ほか | - | 当館学芸員 | - |
| その他 | - | - | その他 | 桜美林大学学生による卒業制作撮影 | 2020/9/26 | 14 | - | - |
| その他 | - | - | その他 | 東京造形大学学生による映画制作撮影 | 2021/2/9 | 2 | - | - |
| その他 | - | - | その他 | S-AIR 主催オンラインフォーラム出演 | 2021/1/9 | 37 | 当館学芸員 | - |
| その他 | - | - | その他 | 東京音楽大学学生などによる施設紹介動画制作協力 | 2021/2/20 | 2 | - | - |
| 展示会等 来場者数計 | | 3,225 | | プログラム 参加者数計 | | 453 | | |

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、2020年3月2日(月)~5月31日(日)、2021年1月13日(水)~3月21日(日) 休館
また上記の理由により従来までの内容を変更したものもあります。※はオンライン観覧総数

令和3年10月発行

編集・発行 | アートラボはしもと(相模原市市民局文化振興課)

令和2年度
所長 | 松島政幸
学芸員 | 加藤慶/柳川雅史(再任用)
美術専門員 | 中尾拓哉/高橋ひかり/堀越時李子
越智波留香/高橋玉恵/富田さゆり

お問い合わせ | TEL:042-703-4654 FAX:042-703-4659
E-mail: artlabo@city.sagamihara.kanagawa.jp
URL: http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp

令和3年度
所長 | 松島政幸
学芸員 | 加藤慶/柳川雅史(再任用)
美術専門員 | 越智波留香/富田さゆり/入江彩美

印刷・デザイン | 清水一光デザイン事務所
表紙写真 | はしもとアートシティ 2020より ビッグペイント制作風景